

社団法人 工学院大学 校友会

# 第102号 校友会報 30卷1号

昭和57年4月



八王子キャンパス内より南方（八王子市街方面）を望む

## — も く じ —

|                             |                              |
|-----------------------------|------------------------------|
| ○学園将来計画大綱（案）……………伊藤 鄭爾…1    | ○昭和57年度事業計画（案）……………12        |
| ○就任の御挨拶……………吉田 清風…2         | ○昭和57年度歳入・歳出予算書（案）……………12    |
| ○フレキシビリティ……………川元 修三…2       | ○昭和56年度財産目録……………12           |
| ○風呂桶の渦巻と穴埋め式問題……………今井 功…3   | ○昭和56年度収支決算書……………13          |
| ○化学工学科卒業のOBの皆様へ……………吉村 慶英…4 | ○昭和56年度事業報告書……………13          |
| ○都市計画からみた東京都……………高山 英華…5    | ○昭和56年度事務報告……………13           |
| ○昭和57年新年懇親会の記……………広報部…7     | ○近況報告 ・電気同窓会……………内山 太…14     |
| ○近況報告 ・学校法人……………8           | ・建築同窓会……………小高 鎮夫…14          |
| ・大 学……………8                  | ・応 化 会……………富所 良二…14          |
| ・高等学校……………9                 | ○校友会だより……………14               |
| ・専門学校……………10                | ○支部だより……………（北海道支部大会）……………15  |
| ○賛助会費徴収のお願い……………会長 前島 為司…11 | ○第5回全国大会開催のお知らせ……………落合 康男…16 |
| ○第26回定時総会開催のお知らせ……………11     |                              |

# 明和の土建機

## 振動ローラ

### ハンドガイド

MRA-85型, 0.85t  
MRA-75型, 0.75t  
MRA-65型, 0.65t  
上下回転式ハンドル  
油圧式

- サイド転圧可能
  - ステアリング軽快
- MVR-30型, 3.0t  
MVR-26型, 2.6t  
MVR-12型, 1.2t



## 新開発

タイヤ  
鉄輪

アスファルト  
舗装最適

コンバインド

## ローラ

センタービン方式

MUC-40型, 4t  
(前鉄輪・後タイヤ)  
MUS-40W型, 4t  
(前後共鉄輪)



## バックホウ ランマー

ベルト掛け式  
RA-120kg  
RA-80kg  
RA-60kg



## タンパランマー

RT-75型  
エンジン直結式  
オイル自動循環式



## コンククリート

MC-10型  
MC-12型  
MC-22型  
MC-30型



(カタログ進呈)



修繕P-9型  
理装P-8型  
整形VP-8型  
VP-7型  
KP-6型



社長 月原 貢 (機58)  
昭和43年春 勲四等旭日章  
昭和53年秋 紺綬褒章

## 株式会社 明和製作所

川口市青木1丁目18-2 〒332  
本社・工場 Tel. (0482)代表(51)4525~9  
大阪営業所 Tel. (06) 961-0747~8  
福岡営業所 Tel. (092)411-0878・4991  
広島営業所 Tel. (0822)93-3977(代)・3758  
名古屋営業所 Tel. (052)361-5285~6  
仙台営業所 Tel. (0222)96-0235~7  
札幌営業所 Tel. (011)822-0064

## 学園将来計画大綱(案)



学園将来計画委員会

委員長 伊藤 鄭 爾

いま私たちに求められているのは選択です。すなわち前進するか、じり貧に陥るか何れかです。激動の現代の中にとどまっていることはありません。すでに私たちは都心型学園という独自のビジョンと目標と達成方策をもったと信じています。私たちはここで学園内外で何が起ったか、何が起りつつあるか、そして何が起ろうとしているか検討してきたのです。そこで今日の私たちが必要な第一のものは実行の決心なのです。

本年8月マスタープログラム(案)は作成されました。それは10年の事業期間であり、同時に転換期であることは明らかであり、夢を現実とする努力の期間です。

ここにおいて栄光の未来を待望するならば皆さん方がそれにふさわしい義務を果し犠牲をいとわない決意と勇気をもってほしいのです。またこの計画には少なくとも10年の歳月が必要とされるとするならば、その成果を手にすることのできる人とできない人が出てきます。しかしいずれの人であっても何をしてくれと学園に要求するのではなくして、いかに学園に貢献できるかによってその報酬と考えていただきたいと思います。力のある人は力を、金のある人は金を、知恵のある人は知恵を出しあうことが参加の一種であると信じます。

この大綱は理事会、将来計画委員会で決定されたものではありませんが、その発表については承認を得たものであります。それゆえに改善すべきところは改善し全学の多くの方の合意が得られたものと判断されたら理事会決定の手続きをとるようにいたします。

記

1. 学園の将来像：都心型を指向する  
教育内容、教育形態および校地はこれを軸として考慮される
2. 教 育  
(a) 文部省(管理局、大学局等)、国土庁、東京都、新宿区、八王子市等の行政指導の確認と了承をとる必

要がある

- (b) 学園(大学、高等学校、専門学校)の体質改善を図る
- (c) 大学第1部は一時八王子校地に全学を受け入れる必要がある
- (d) 大学第2部は文部省の行政指導によって募集停止せざるをえない。代案は新宿開発中に考える
- (e) 専門学校は八王子に移し昼間部を拡充する
- (f) 高等学校は計画推進中は現在地を離れることのない教育形態とする
- (g) 新宿開発後、高等生涯教育、高等研究機関および学術的国際交流を考慮する
- (h) 新学部等新設等は事業完了後に考慮する

### 3. 施設・設備

- (a) 八王子校舎の着工は1983年(昭和58年)とする
- (b) 八王子校舎への集結移動は1986年(昭和61年)とする
- (c) 新宿校舎の建設開始は1986年(昭和61年)とする
- (d) 新宿校舎への移動は1990年(昭和65年)とする
- (e) ただし次の設備は八王子校舎に残す  
重装備のもの、接地性を要するもの、地下鉄の影響をうけるもの、防災上危険なもの、買いかえた方がよいとみなされるもの等

- (f) 新築の新宿校舎には現教員の研究室は確保される

### 4. 人・業務

- (a) 八王子校地集結中の業務計画と人事計画をたてる
- (b) 夜学停止に伴う業務計画と人事計画をたてる
- (c) 新宿校地再開発後、新業務体制をとる

### 5. 資 金

- (a) 資金計画は八王子校舎建設計画と新宿開発計画とリンクさせない
- (b) 八王子校舎建設の資金は私学振興財団からの借入、経営費および延べ払い等による

(c) 新開発関係の資金はディベロッパー等との提携による保証金等と金融機関からの協調融資等による

6. 事業

(a) 本学の独自性を確保する一環として高等生涯教育等を行ない社会的ニーズに応え併せて収益を図る

以上



就任の御挨拶

法人 調査企画室長 吉田 清風

法人調査企画室に勤務しております吉田清風でございます。

今回、校友会より要請を賜わり、全く思いがけなく校友会事務局局長兼務として、勤めることになりました。

つきましては、極めて不馴れであり、未熟でございます

すが、お引受けした以上何とかお役に立ちたいと存じております。

皆様の絶大な御支援と御協力を切望して就任の御挨拶といたします。(新任校友会事務局局長)



フレキシビリティ

生産機械工学科

主任教授 川元 修三

最近の日米経済摩擦にもみられるように、日本の製品は安くて、いい品物だということは世界中で認められているといっている。安価で高品質の製品をつくる生産方式として、流れ作業に代表される大量生産・大量消費方式は、高度成長時代にはその効果を発揮してきた。このような供給主導形の考え方は需要が供給を上まわっているとき、または新しい需要が開拓されている間は、うまく機能しているが、需給関係が次第に飽和してくると、色々な摩擦がでてくる。日米の摩擦もその一つかも知れない。

さてオイルショックを契機にして、省資源、省エネルギーがいわれだし、また需要の多様化と共に、従来の大量生産・大量消費方式に対する反省がうまれてきた。

一つの生産設備で、多品種・中小量生産が可能となる生産方式として、最近フレキシブル・オートメーション、またはFMS (flexible manufacturvig sytem)

ということばがいわれだした。フレキシビリティを主体としたこの生産方式では、最もフレキシブルな、融通性に富むものは人間であり、人間の機能に近いものを機械化した産業用ロボットが、その主役に登場したのである。今の所、産業用ロボットの知能指数は、人間に比べて、まだまだ低い。最近のエレクトロニクスやコンピュータの発達、ロボットの知能をどこまで人間に近づけることができるかが、一つの目標となっている。最終的なゴールと考えられている無人工場では、我々人間が欲しい品物を、必要な時に、必要な数だけ、ボタン一つ押すことによって入手することができるといわれている。

フレキシビリティは何も生産方式にばかり考えられるものではなく、例えば教育のフレキシビリティということも考えてみる必要がある。現在の技術革新のテンポはますます加速化しており、10年後、20年後にどんな技術

が生れているか誰も予測することができないであろう。これは逆に今から10年前、20年前に現在のエレクトロニクスやコンピュータの発達を予測し得たかを考えてみても分ろう。

そのような技術の変動の中ではいたずらに専門化したSpecialistの養成を目指した教育が果して適切かどうか考えてみる必要がある。生物でもあまりに特殊化した種は、一寸した環境の変化にも適応できず絶滅の目に会う

という。大学教育においても、専門教育に重点をおくべきであるという意見と、高い教養と基礎的知識の教育を主体とすべきだという意見があるが、その答えは明かのように思える。

我々が目指すべき教育というのは、いつでも新しいものに積極的に取り組み、それを消化し、自分のものにすることができるような知力、体力、精神力をもった人間をつくることにあるのではないだろうか。



風呂桶の渦巻と穴埋め式問題

共通課程主任教授 今井 功

台風が巨大な渦巻であることは気象衛星でとった写真で今ではだれでも知っている。そして、北半球では台風は左巻き(時計と逆回り)の渦巻であることや、地球の自転の影響でおこることも学校で教えられている。つまり、地球上の気象は、地球の自転によって地軸を軸とする回転運動を行っており、それが低気圧に吸い込まれると、回転運動が集中して巨大な渦巻に成長すると説明される。そして、その現象の身近な例として、風呂桶から水を抜くとき渦巻ができることが挙げられることがある。そうすると、北半球では風呂桶にできる渦巻はいつでも左巻き、南半球では右巻きということになるが、これを事実だと信じている人も多いようである。

しかし、実際は、地球の自転は1日に1回転というごく僅かなもので、風呂桶の水の運動に影響を与えるとはとても思えない。大気中での台風の成長発達に対する地球自転の影響を実験室でシミュレートするためには、風呂桶——水槽——を回転台の上にのせるなどして、もっと大きな回転速度を与えることが必要なのである。しかし、風呂桶をあらかじめ回転させておかなくても、実際に渦巻ができるではないか? なぜか? 当然、このような疑問が生ずるであろう。それには、風呂桶の排水口の位置が対称的ではないからだという一応の説明がある。それなら、排水口の位置を完全に対称にすれば渦巻はできないのか、という疑問がおこる。実は、これは現

在の流体力学でも未解決の難問なのである。

ちかごろ入学試験などで穴埋め式の問題が大はやりである。しかし、これに対していささか疑問を感じることもある。①~⑤のうち適当なものを選んで穴を埋めよ——といった問題である。正解が必ず、しかも1つだけ、①~⑤の中に含まれていることが前提になっているから、受験者としては正解について確信がもてなくても、とにかく正解らしくないものをつぎつぎ消してゆけばよい。つまり、「消去法」で正解が得られるしくみになっている。これによって受験者の知識や判断力についてある程度の判定は得られるであろう。しかし、試験をはなれて、現実の世界ではどうであろうか? なにかある問題にぶつかったばあい、起り得る状況は①~⑤のようにはっきりわかっているものだろうか。そのようなばあいに正解を見出すことはむしろ簡単である。むしろかしいのは、そして重要なことは、起り得る状況をいろいろ想定して、その中で最適の解を求めることである。たとえば、詰将棋の問題を解くのは比較的やさしい。解が存在することがわかっているからである。しかし実戦のばあいはどうか? 研究室でも、現場でも、あるいは日常の問題についても、こみ入った状況の中から、考え得るばあいを①、②、……と整理することがまず第一に重要であって、そのばあい分けができた段階では、その中の最適の解を見つけることはむしろ容易である。

入学試験で穴埋め式の問題が採点の容易さや公平さの点からすぐれているのはいうまでもない。しかし、受験者が受験準備に追われて、あらゆる問題が「①～⑤の中に正解が必ず1つある」というような型にはまった思考形式に慣らされるのが恐ろしいと思う。

風呂桶の渦巻がなぜできるか？ その原因としてはど



### 化学工学科卒業のOBの皆様へ

化学工学科主任教授 吉村 慶英

化学工学科卒業のOBの皆様、益々御健勝にて御多忙な毎日をお過ごしのことと存じます。

本学化学工学科も独立して十余年が経ち徐々に実力をつけてきた感じがします。本年度は競争率もかなり上昇し、したがって優秀な学生が入学してくることは間違いなく、我々も期待をかけています。化工にもやっと春風が訪れた感があります。まず、最初に、このようなニュースをお伝えして、OBの皆様と喜びをわかち合いたいと思います。

東日本では、私大としては唯一の化学工学科であり、

のようなものが考えられるか？ ①地球の自転、②排水口の位置、③水の粘性、……これらの要因を考え出すことがまず大切である。そしてその作業は、穴埋め式問題のとり扱いに熟練しているだけではとうてい不可能と考えられるのである。

また、化学工学科に対する社会の要望や評価が高まりつつある現状から、今後、我々の役割は益々重みを持つことになるでしょう。米国では、化学工学は将来性のある最も重要な分野とされています。日本においても、その例に違りものではなく、前途洋々たるものがあります。我々は自負を感ずると同時に責任の重大さを痛感します。皆様の我々に対する叱咤激励と御協力をお願いする次第であります。また何か御相談でもあればいつでも新宿校舎・八王子校舎を訪れて下さい。歓迎します。

最後に、OB諸兄の一層の御活躍を期待いたします。

新年懇親会における講演要旨

## 都市計画からみた東京都



理事長 高山 英華

唯今紹介にあづかりました、高山です。この学校は非常に長い歴史をもっています。

明治21年(1888年)に成立ち(開校)、大正震災後、大正13年(1924年)に現校舎敷地(豊多摩郡淀橋町)に移り、淀橋浄水場に面したところで、正門が浄水場側にあり、私は子供の頃、よく遊びに来ていたので覚えがあります。

そしてその後増築され現在の大きさになりました。現在はぼう大な東京都になりましたが、もとは15区で、環状線内位が東京市でした。

ここ新宿は当時は東京の郊外でありました。それが23区になり、市外であった三多摩方面が今は東京都という行政範囲になり、当時、中央線は国鉄として新宿と立川を結び西方へ発達していき、東京の人口が三多摩にのびていき、現在は東京の人口の中心が新宿あたりになり、東京都の中でも重要なところとなりました。

日本の都市は、奈良、京都のように当時の王公が都を構へ、中国の都市計画を真似て作っていた時期があります。

その後は永い徳川幕府が戦国時代を経、お城が山から平野へと降りてゆき、徳川幕府の時には港湾の平野の便利なところに城下町を作り、いろいろな文化を育ててきました。

東京もそれにならい、始めは皇居を、そして又300年の文化は江戸時代には世界で一・二を競そうようになり、西洋では城の内に土農工商、町の人を全部を入れているのだが、日本の城下町は島国のため、農工商を域の外に任せ、広く開くことをしない特色でありました。すなわち、西洋では枠の内にいれて「都市国家」を作る、日本は都市国家というものはなかった。今の堺市を始めとして、むしろ開いた形の平野を中心としたものが東京都、大阪市です。

それが明治維新以来西洋の文明を取り入れて、追いつ

け追い越せて、明治政府は東京に遷都をつくと同時に、江戸を新しい近代都市にしようとする努力をし、皇居の廻りに官庁街・ビジネス街・鉄道を新橋駅、それに議事堂と、いろいろ恰好をつけました。

それにひきかえ一般の市民の住宅市街はそれほど立派なものではなかったのです。

それに二回のダメージを受けた、それは関東大震災、戦災でした。復興はバラック造を建てておいて、お金が出来たら建直すといっていたのが、金が集まるともって儲けられると思いつづけて、市民の生活環境として「都市計画」を考へることが出来ませんでした。

ロンドンでは、1666年頃、ロンドン大火のときはまだ木造都市であった。その頃は木材も少なかったため、其の後木造禁止、燃えない石造とかその他の材料で造られていったのです。これが第2次大戦でドイツから被害を受けたが、燃えない街であったためあのような市街戦という戦が出来たのです。

だが残念ながら日本は関東大震災後も木造で作り中心部だけが鉄筋コンクリートであったため、第二次大戦ではアメリカは焼夷弾を發明し、砂漠の中に木造都市の模型をつくり日本都市を燃やしてしまう訓練をしていたのです。重い爆弾の替りに軽い焼夷弾でB29に積載しあのような全区戦災都市となりました。

その後又現在非常に大きな木造市街区が延びていて、心配なのは、もう一度大地震が来ると、そのとき一遍に機能が停止してしまうであろうことです。

それは木造住宅が前の15区、特に下町の方に密集して、あの関東大震災(旧市内)で壊滅してしまいました。その時分はちょっと郊外に出れば逃れる場所があったのです。

それが現在でも23区は、もとより中央線、東海道線或は小田急線と郊外各沿線に沢山の木造市街が延びていて、危ないのは、むしろ江東地区よりも、杉並、池袋等

電気機器の設計・検査  
業務  
開発手法・実験計画法

### 小沼技術管理事務所

所属団体

- (社) 日本技術士会
- (社) 関西電気管理技術者協会
- (社) 大阪技術振興協会
- 地域産業技術協力センター

電気管理技術者  
電気技術士  
生産管理

小沼 三郎

(昭2電気卒)  
校友会大阪支部理事

☎666-01 兵庫県川西市東多田字滝の上3-147  
電話 (0727) 93-0341

6 第30巻 第1号

その周辺が調査により大火の起る危険性の多いゾーンであり、避難場所も少ないところで、中央区などかえって安全といえるところでしょう。

もう一つは、当時は自動車は問題ありませんでしたが、今は危険なトラブルを起こし易く、例えば1台自動車がひっくり返りでもしたら大事になるでしょう。

もう一つ、以前の街はたんなる自然と伴に生活できていて、あまり近代化されていなかった、ある意味では非常に安全のサイクルであった。アミバーとかは単純な作用でライフサイクルを復活しますが、我々高等動物は、あるところに針を1本うたれると一遍でまいてしまふ、複雑な要素、構造をもっているのです。

それですら東京を人間と考えますと日本の脳の中心あたりでありましょう。

現在は色々な情報網が集中しており、オンライン、エレクトロニクスをつかい、世界の宇宙衛星を通じて、世界の交通網、通信網も発達し、今では楽になりました。

しかし逆に考えますと地球全体がかなり高等動物化してきているといえましょう。

ところがいくら防衛を固めても、これからの戦争はボタン一発150mの誤差しかないミサイルが飛んで来ます。

軍艦や飛行機を何十台増やしても国を護りきれないのではないのでしょうか。

それよりも日本の首都を始め各都市を地震に対しても火災に対しても、日常生活に対しても結果として安全につながるという発想がもてないかと、私のいつわざる感想です。

我々は子孫の為に、我々の国土をきれいに造り直し、日本民族が未永く安全に暮らしていられるところとして東京に、大阪に、各土地、地方都市に定住が出来る生活環境を造ることを180°転回して、生活権、定住権を重要視しなければなりません。

政治、経済が一致しておるような感じの英国では工場、学校を分散させる気運が生まれました。

ブラジリア(ブラジルの首都)が首都移転で出来上がったのですが、現在再考の時期が早くも世界的課題となっ

ています。

もう一度都市にあるべきものを見直し、都市に呼びもどす方がよい、都市に学園都市を造ろう、英国はあまりにも分散してしまい、「英国病」が産業までも衰退させています。

それにひきかえ東京は活力がありますので都心にもう一回帰って来る必要のものは帰えると考えられます。

大阪でも大学を都市より出しすぎて、街に知的なおいが少なくなりました。

我が工学院大学もこの際どのような方法をもつか、ここに関連性を生むはめになった。

それで、都心という言葉がよく使われますが、大きくみると東京の15区の旧東京市は都心といってもよいのではないのでしょうか。

又もう少し小さくみれば、都心は三区で中央区、千代田区、港区といえましょう。

いまヒッターランド(後背地)の人口をもとにしまして新宿は初め「副都心」といい、現在は「新都心」と呼ばれ今迄と違った形をしています。

東京都庁も新宿もってくることにになり、都心という言葉は広く又狭くとなったり、古くとなったり、新しくとなったりするようになっていく、これらを考えてか本学では先輩達が安いところということでは本学の土地を購入したのでしょう。

今この土地の価値は、その立地条件の良さは私達が造り上げたものではありません。

現実にはあまりにも大きな価値を展望しております。

ですからこういう場所を、今後工学院大学の将来の発展のために、どう使うかということが今日大きな問題なのであります。

例えば夜間には、生涯高等教育の場として、或は大学院の卒業生教育、更に社会に出た人達をもう一度教育する場、高齢化社会の老人教育等々の教育の場としての活用は、社会的にも重要視できるのではないかと、皆さん方と忌憚のない意見を話し合いながら今後将来の方向をあやまらずに進みたいと存じます。

(金尾記)

# 昭和57年新年懇親会の記

## 広 報 部



会 長 挨拶

(教授)、遠藤高等学校長、鈴木専門学校長、鎌田、赤松、増田、伊保内、柿沢、山下各主任教授、小倉学生部長、平岡専門学校教務長、計13名

○校友会出席者合計 100名

◎感謝状贈呈者

前 川崎支部長 関口城吉 (A建73)

〃 鹿児島支部長 水瀧清見 (B電102)

〃 台湾校友会会長 杜端昌 (G工化5)

◎死亡者(哀悼)

前 中野支部長 竹内七蔵 (B電101)  
(56. 8. 16 66歳)

前 北海道支部長 渡辺彦太郎 (A電59)  
(56. 12. 5 83歳)

前 中野支部長 小宮清則 (A土69)  
(57. 1. 3 78歳)

○賛助御協力者

学校法人工学院大学、社団法人校友会出身法人理事 3名、監事3名、校友会理事1名、計7名

広告掲載協力 20社及3名

新年恒例の校友会懇親会は、今年は新宿校舎で行われた。いつもなら熱海とか湯本とかで催されていたのだが、今年は色々趣向を変えた上に、高山新理事長の特別講演という画期的な計画を盛り込み、また従来は支部単位に出席者が纏められたのが、今回は単体同窓会単位に行うということになり、その結果出席者の顔ぶれにも変化があって、諸先生方の顔が沢山見られたこと、出席者が年齢的にぐっと若返ったと言えるが、反面、遠隔地の支部会員の方々の出席が多少減少した傾向もあった。いずれにしても大変な活況であった。会は次のスケジュールに従って行われた。

- |         |             |    |                             |
|---------|-------------|----|-----------------------------|
| 次第      | 第一部 講演      | 於  | 4階講堂                        |
|         | 会議          | 司会 | 丹羽理事                        |
| AM11.00 | 1. 開会の辞     | 南  | 経理部長                        |
|         | 2. 挨拶       | 前  | 島校友会長                       |
|         | 3. 特別講演     | 高  | 山理事長                        |
|         |             |    | 「都市計画から見た東京都」<br>(別項大要記録通り) |
|         | 4. 閉会の辞     | 足  | 立副会長                        |
|         | 第二部 懇親会     | 於  | 8階会議室                       |
|         |             | 司会 | 吉岡理事                        |
| AM12.30 | 1. 開会の挨拶    | 篠  | 原事業部長                       |
|         | 2. 遠来者紹介    | 小  | 野塚支部拡充部長                    |
|         | 3. 恩賞者紹介    | 落  | 合総務部長                       |
|         | 4. 乾杯       | 長  | 坂副会長                        |
|         |             |    | (宴会)                        |
|         | 5. 福引その他の余興 |    |                             |
|         | 6. 学園歌斉唱    | 森  | 山副会長                        |
|         | 7. 母校万才     | 富  | 所副会長                        |
|         | 8. 校友会万才    | 伊  | 藤学長                         |
|         | 9. 閉会の辞     | 小  | 高副会長                        |

◎出席者

◎来賓出席、高山理事長、伊藤学長、草野常任理事



学長を囲むテーブル

(付記)

当日の庄巻は、事業部の発案により、懇親会場に出席各教授を囲むテーブル拾数個が設けられ、会の気分の盛



赤松教授を囲むテーブル、篠原委員長とスタッフ

り上った頃あいを見計らい、テーブル毎にサツメロの合唱が行われたことで、配られた歌詞の印刷物を手にして老いも若きも肩を触れ合いながらひとときの熱演を楽しんだ。(角田)

## 近況報告

### ◇ 学校法人 ◇

○本学園関係者叙勲について

昭和56年秋の叙勲に際して、本学電子工学科教授・尾佐竹絢評議員が紫綬褒章を受章されました。

(1)工学院大学教育振興協力募金

この募金は、本学の教育・研究振興のために大学学部在学生の父母を対象に行っている任意による寄付金であり、1月31日現在764件56,873千円の申込みがありました。なお、今年から大学在学生の父母に加え、卒業生、本学園教職員、会社団体等からの寄付も免税措置を適用して受入れられるよう改めました。

(2)創立90周年記念事業募金

この募金は、昨年3月末日をもって終了いたしました。4月以降若干の申込みがあり、1月31日現在総額246,247千円になりました。

(3)大学後援会からの寄付

一般寄付金として3,000千円、軽井沢学寮石垣工事費として2,170千円のはか同学寮及び富士吉田セミナー校舎暖房器具等機器備品として2,589,020円の寄付がありました。

(4)その他

本学卒業生・妻島興名誉教授、本学園松本与作監事及び本学園生協からオフィスコンピューター、絵画及び書籍等の寄付がありました。

○専門学校昼間部に学科増設

かねてからの懸案事項でありました専門学校昼間部の充実を図るため、産業界の要請に応え、資格取得を前提とした電気技術科及び環境化学科並びに急激な技術進歩の分野で企業からの要望が強い電子情報科の三学科を昭和57年度から昼間部に増設しました。入学定員は各学科40名です。

なお、これに伴い新学科の内容の充実・発展を期するため、大学の工業化学科村上徹朗教授、電子工学科西野治教授及び同学科尾佐竹絢教授を専門学校運営担当の常務理事会委員に委嘱されました。

### ◇ 大 学 ◇

◎1月23日(土)、大学後援会地方支部役員および支部設立のための世話会が、本学第1会議室で開催された。後援会では、1昨年から後援会の組織を充実するために、全国各地で「父母懇談会」を開催し、地方在住者の父母に大学の情報を提供するとともに、子息の成績取得

## 近況報告

状況を報告してきた。そしてさらに、この父母懇談会を軸として、後援会の地方支部の結成を促進してきた。その結果、現在、北九州地区、甲信地区、静岡地区の3地区でそれぞれ支部が結成された。この成果のひとつの区切りとして、今回、世話会を開催したのである。参加父母約100名。学長から学園将来計画についての説明があり、ついで後援会会長から地方支部設立の主旨説明があつて、会は盛況のうちに終了した。

◎2月7日(日)付の『毎日新聞』(朝刊)は、「大学受験に異変」のタイトルで、本年度の大学入試戦線における理工系学科への異常人気を伝えている。この現象は、科学時代を反映し、最近とくに若者間で人気を集めているコンピューター、ロボットなどへの関心がたかまっていることにあると分析。この傾向を示すひとつの例として、工学院大学の機械電気、電子の倍率が紹介されている。

大学第1部の入学試験は、2月8日(月)、電子工学科、2月9日(火)・機械工学科、工業化学科、化学工学科の日程でそれぞれ実施された。新聞が報道するごとく、第1部への応募状況は、昨年をうまわる約1.7倍の伸長となり、機械系、電気系の競争率は高倍率を示した。各学科への倍率は、下記の通り。

(第1部)

| 学 科 名     | 定 員 | 志 願 者 | 競 争 率 |
|-----------|-----|-------|-------|
| 機 械 系 学 科 | 180 | 2,163 | 12.0  |
| 工 業 化 学 科 | 80  | 536   | 6.7   |
| 化 学 工 学 科 | 50  | 445   | 8.9   |
| 電 気 工 学 科 | 90  | 1,513 | 16.8  |
| 電 子 工 学 科 | 90  | 2,880 | 32    |
| 建 築 学 科   | 150 | 1,427 | 9.5   |

ちなみに、第2部の各学科の競争率は次の通りである。

(第2部)

| 学 科 名     | 定 員 | 志 願 者 | 競 争 率 |
|-----------|-----|-------|-------|
| 機 械 工 学 科 | 120 | 134   | 1.1   |
| 工 業 化 学 科 | 90  | 56    | 0.6   |

|           |     |     |     |
|-----------|-----|-----|-----|
| 電 気 工 学 科 | 110 | 210 | 1.9 |
| 建 築 学 科   | 110 | 183 | 1.4 |

◎ 任期満了に伴う学長選挙は、学生による除斥投票の結果、伊藤鄭爾教授(建築)、今井功教授(共通)、田中元教授(共通)、波多江健郎教授(建築)、山口章三郎教授(機械)の5候補の全員が第1次候補者となり、大学の専任教職員全員による第1次選挙が行われ、伊藤鄭爾、今井功、田中元の3教授が第2次選挙の候補者となった。ついで行われた大学の専任の教授、助教授、講師の全員による第2次選挙の結果、伊藤鄭爾55票、今井功45票、田中元22票となり、伊藤、今井両候補の決選投票が行われ、第1回の投票では過半数に達せず、第2回の投票で伊藤鄭爾62票、今井功59票、白票1票で、学長の最終候補者には、伊藤鄭爾教授が決定し、教授総会、理事会の承認を経て、57年度から新学長として正式に就任する予定である。(文責 茅原)

(教務部長 宮島 亮)

### ◇ 高等学校 ◇

《学校行事》

昭和56年10月6日、高校・専門学校連絡協議会設立準備会。57年度より年間2回開催し、両校間の意志の疏通、進学情報の交換等に資することに合意した。10月20日、第1回中学校説明会10月21日、2年生九州一周修学旅行に出発(5泊6日)。本校始まって以来、初めて帰路飛行機を利用。2年間に亘り論議を重ねた結果である。10月26日、第二回中学校説明会、10月28日、第一回推薦試験、工業科約50名を含めて181名が受験。今年度は少数激戦(?)の様相であった。10月29日、第一回大学・高校連絡協議会小委員会、高校出身者の学力及び学習意欲の向上、小委員会の役割等について検討した。

10月31日、11月1日、両日学院祭。第一日目は土曜日にも拘らず、観覧者少く、当事者をやきもきさせる。さすがに二日目は日曜日にふさわしい来訪者でほとしたが、内容も含めて全般に低調の感を免がれなかった。11月6日、大学教務部との教職打合せ会議。高校側の受入れている教育実習生の実習状況の検討、及び工業科教員の担当している大学技術課程の夏休み特習実施状況につ

近況報告

いての報告・要請等を踏まえて、来年度実施内容の打合せをする。

11月9日、第三回中学校説明会。11日18日、防災訓練。法人施設課の協力を得て、各階に発煙筒をたいて臨場感を出す。火災を報せる非常ベルが鳴って、各階からの生徒が全員校庭に集合し終るまでの時間は4分40秒であった。

12月7日、第二次推薦試験。

12月17日、第2回大学・高校連絡協議会小委員会、高校における普通科・工業科併設の意義、大学との関連について従来になく突込んだ意見の交換を行った。

57年1月12日、推試合格者発表、一部125名、二部21名、2月5日、推試合格者に対する学力補充のため指名講習開始(12日まで)、2月20日は入学試験。丙午で志願者の減少が懸念されたが、案に相違して工業科514名、普通科812名、計1,326名で、前年を17名上回っていた。

57年度高等学校入学志願者受付状況

| 学科別      | 入学定員 | 57年度<br>志願者数 | 56年度<br>志願者数 | 志願者<br>の増減 |
|----------|------|--------------|--------------|------------|
| 工業に関する学科 | 名    | 名            | 名            | 名          |
| 機械科      | 50   | 159          | 136          | +23        |
| 電気科      | 50   | 172          | 179          | -7         |
| 建築科      | 50   | 102          | 108          | -6         |
| 工業化学科    | 50   | 81           | 73           | +8         |
| 普通科      | 200  | 812          | 813          | -1         |
| 合計       | 400  | 1,326        | 1,309        | +17        |

◇ 専門学校 ◇

○学科新設統合

| 学科別 | 入学定員 | 日間<br>志願者数 |          |          | 2月末計 | 学科別   | 入学定員 | 志願者数<br>2月末計 |
|-----|------|------------|----------|----------|------|-------|------|--------------|
|     |      | 推薦入学       | 一般入学(一次) | 一般入学(二次) |      |       |      |              |
| 木 科 | 40   | 23         | 19       |          | 42   | 木 科   | 40   | 34           |
| 機 科 | //   | 39         | 32       |          | 71   | 機 科   | //   | 19           |
| 建 科 | //   | 67         | 83       |          | 150  | 造船コース | //   | 8            |
| 電 科 | //   | 0          | 12       |          | 12   | 金属コース | //   | 5            |
| 電 科 | //   | 1          | 17       |          | 18   | 電 科   | //   | 15           |
| 環 科 | //   | 2          | 2        |          | 4    | 電 科   | 100  | 57           |
| 計   | 240  | 132        | 165      |          | 297  | 用 科   | 40   | 27           |
|     |      |            |          |          |      | 計     | 340  | 165          |

出願期日3/1~3/16

出願期日1/18~3/31

《進学》前記工学院大学への進学者の他、2月現在、東海大、明星大、工芸大、独協大、城西大等に20名が決まっております。なお19名が国立・私立の諸大学を受験中である。専門学校も、工学院大学専門学校の18名を筆頭に80名が進学している。

《就職》1月中旬に就職希望者83名全員が決定、その中、電気、自動車関係企業への就職者が半数以上を占めている。主な就職先は下記の通りである。電気化学、同和工業、日野自動車、日産自動車、日本光学、三菱電機、日本電気、国鉄、東京電力、電信電話会社等。

《クラブ活動》

○自然科学部、秋の日本学生科学賞出品を目指して、太陽スペクトルの分析、星の撮影などに使える天文機器の製作に着手。

○柔道部、2月7日、東京都第五支部新人戦に、参加63校の中から、拓大一高を破って優勝、前年度の雪辱を遂げると共に、東京都大会への出場権を獲得した。

○サッカー部、参加40校の中から、東京都第七地区の決勝まで進出したが、11月8日、桐朋高校に3-0で惜敗、都大会進出は果たせなかった。

《消息》東京都知事表彰、遠藤鎮雄校長  
多年に亘り、私立学校の校長、教諭として学校教育に専念され、私学の振興に貢献された功勞によって、10月1日東京都知事から表彰を受けられました。

(高校 富越美知夫)

昼間部：57年度から電気技術科、電子情報科、環境化学科の3学科が新設されます。11月5日増設決定後の募

近況報告

集開始で、初年度は多くを望めませんが、今後の伸びを期待しております。

夜間部：57年度から造船科、金属科を機械科へ統合し、造船コース、金属コースとします。極力共通科目を増し、合同授業による合理化をはかることになりました。

○入学志願者状況

全国の約1,500高校に入学案内を送ると共に、校長を先頭に教職員を動員して、重点的に学校や会社を訪問推進しております。同窓会、校友会の皆様からの積極的なご援助に感謝申し上げます。

入学時の数に対する卒業予定者数の率は、昼間部60%、夜間部45%となります。

尚、昼間部第2回卒業式、夜間部第179回卒業式、建

築科研究科第15回卒業式を合同で3月28日(日)に挙行いたします。

○56年度就職状況

就職希望者の約10倍の求人いただきました。本年度の特徴は大企業志向で、土木・建築科の就職者の約25%が大企業でした。(求人企業数約800社)

(校務長 安原 豊)

○卒業予定者数

|     | 土木 | 機械 | 電気 | 建築  | 応化 | 造船 | 金属 | 合計  | 建築・<br>研究科 |
|-----|----|----|----|-----|----|----|----|-----|------------|
| 昼間部 | 58 | 46 |    | 70  |    |    |    | 174 |            |
| 夜間部 | 45 | 21 | 32 | 100 | 20 | 10 | 3  | 231 | 45         |

賛助会費徴収のお願い

会長 前島 為司

昨年の総会において承認をされました賛助会費を、今年度より正会員からも徴収させて頂くことになりました。同窓会、校友会の合併により、それまでの校友会費は、年会費納入者をも含め、現在迄一応徴収を見合わせておりましたが、昨年より新たに、大学20,000円、高校、専門学校15,000円の校友会費(同窓会費を含む)を学校卒業時迄に納入することになりました。

そこで正会員の皆様からも、校友会の定款の第6条2項賛助会員の項を適用致しまして『賛助会員費は1口

2,000円以上とし、1口以上を毎年納入するものとする。但し、25口(50,000円)以上又はこれに相当する物品を一時に納入した場合は以後の納入を要しない。』という規定をもって賛助会費の徴収をお願い致します。現在校友会の運用財産は残り少なく、定款に基づく事業を行うに足る資金はほとんどない状況です。会員一人一人の絶大な御協力をお願い致します。なお徴収された会費の一部は支部の援助金として活用される予定です。

別紙振込用紙にて会費を郵送して頂くことで、賛助会員の登録手続きをさせて頂けます。よろしくお願い致します。

社団法人 工学院大学校友会 第26回 定時総会開催お知らせ

会長 前島 為司

- 目 時 昭和三十七年5月30日(日)午後2時30分～5時30分
- 場 所 工学院大学第一会議室(8階)
- 議 案
- 第1号 昭和三十六年度事業報告並びに収支決算書承認の件
- 第2号 昭和三十六年度財産目録承認の件  
◎監査報告
- 第3号 昭和三十七年度事業計画(案)並びに収支予算(案)承認の件

- 第4号 評議員、役員任期変更について(定款一部変更)
- 第5号 賛助会員費について
- <注意> 1. 本誌に同封の郵便はがきにより、折返し出欠の有無を御回答下さい。
- 2. 施行細則第8条により、当該議事について意志表示のない場合は、同意の意志表示とみなして、出席者数に加えることができますのであらかじめ御了承下さい。

昭和57年度事業計画(案)

| 事業に関する定款条文  | 事業内容   |
|---|--|
| 学校の教育施設の改善に関する助成(定款第5条第1項)                        | 1. 学校法人工学院大学と協議の上で援助する。<br>2. 学園将来計画に協力する。   |
| 学校に在籍する学生、生徒の学修活動および就職指導ならびに教職員の調査研究の助成(定款第5条第2項) | 1. 学生、生徒の研修援助<br>優秀なる学生には各学校毎に制度を設けて表彰する。<br>2. 教職員の調査研究の助成<br>本学園の教職員の調査研究に加成金を贈って援助する。   |
| 会誌および学術図書の刊行(定款第5条第3項)                            | 1. 校友会々報の発行<br>本年度は2回発行を予定。<br>2. 会員名簿の刊行<br>学園コンピューターシステムとの連動による会員名簿の作成準備。  |
| 学術に関する講演会および見学会等の開催(定款第5条第4項)                     | 1. 学術講演会や工場見学会を開催する。   |
| 会員相互の親睦提携および学校との連絡を図るに必要な施設の設置(定款第5条第5項)          | 1. 校友会諸設備および校友会館の建設<br>校友会事務室、会議室等を整備し、将来校友会館を建設するための具体的計画を促進し、実行するよう努力する。<br>2. 懇話会等の開催<br>全国大会、新年懇親会等の開催。<br>3. 支部の支援<br>支部長会議を機能化し、支部組織の活性化を図る。 |
| 学校の行なう就職あっせんおよび紹介に関する援助(定款第5条第6項)                 | 1. 就職あっせん、事業紹介等を行なう。   |

昭和57年度歳入・歳出予算書(案)

| 収入の部(円)        |           | 支出の部(円)    |           |
|----------------|-----------|------------|-----------|
| 1. 会費収入        | 7,001,600 | 1. 事務総経費   | 7,300,000 |
| (1) 機械         | 1,156,937 | (1) 人件費    | 4,670,000 |
| (2) 応化         | 785,868   | (2) 事務諸費   | 1,120,000 |
| (3) 電気         | 1,444,365 | (3) 会議費    | 1,200,000 |
| (4) 建築         | 1,267,322 | (4) 対外費    | 200,000   |
| (5) 高専         | 638,375   | (5) 慶弔費    | 100,000   |
| (6) 専門         | 1,208,733 | (6) 租・公課   | 10,000    |
| (7) その他賛助会費    | 500,000   | 2. 事業費     | 2,000,000 |
| 2. 寄付金         | 20,000    | (1) 広報部費   | 100,000   |
| 3. 事業収入(会報広告料) | 200,000   | (2) 支部拡充部費 | 500,000   |
| 4. 利子収入        | 100,000   | (3) 事業部費   | 800,000   |
| 5. 雑収入         | 10,000    | (4) 編集部費   | 200,000   |
| 6. 運用基金繰入金     | 2,168,400 | (5) 総務部費   | 200,000   |
| 7. 前年度剰余金      | 0         | (6) 全国大会費  | 200,000   |
| 合計             | 9,500,000 | 3. 職員退職引当金 | 200,000   |
|                |           | 4. 予備費     | 0         |
|                |           | 合計         | 9,500,000 |

昭和56年度財産目録(昭和56年3月31日現在)

|         |             |                |            |
|---------|-------------|----------------|------------|
| 1. 基本財産 | 4,913,650円  | (1) 運用財産基金勘定   | 3,316,676円 |
| 2. 運用財産 | 5,351,100円  | (2) 終身会員費積立金勘定 | 1,093,041円 |
| 3. 別途預金 | 10,332,671円 | (3) 職員退職引当金勘定  | 905,633円   |
| 1+2+3合計 | 20,597,421円 | (4) 備品         | 35,750円    |

昭和56年度収支決算書

収入の部(円)

支出の部(円)

自 昭和56年4月1日(△減)  
至 昭和57年3月31日

| 款 項            | 予算額       | 決算額       | 差 異        | 款 項        | 予算額       | 決算額       | 差 異        |
|----------------|-----------|-----------|------------|------------|-----------|-----------|------------|
| 1. 会費収入        | 5,918,000 | 5,424,000 | △494,000   | 1. 事務総経費   | 6,592,900 | 6,480,452 | △112,448   |
| (1) 機械         | 1,075,881 | 1,075,881 | 0          | (1) 人件費    | 4,197,900 | 4,278,755 | -80,855    |
| (2) 応化         | 647,606   | 647,606   | 0          | (2) 事務諸費   | 945,000   | 889,933   | △55,067    |
| (3) 電気         | 1,048,945 | 1,048,945 | 0          | (3) 会議費    | 1,320,000 | 1,081,464 | △238,536   |
| (4) 建築         | 1,041,634 | 1,041,634 | 0          | (4) 対外費    | 80,000    | 160,000   | 80,000     |
| (5) 高専         | 575,381   | 575,381   | 0          | (5) 慶弔費    | 50,000    | 60,000    | 10,000     |
| (6) 専門         | 1,028,553 | 1,028,553 | 0          | (6) 租・公課   | —         | 10,300    | 10,300     |
| (7) その他賛助会費    | 500,000   | 6,000     | △494,000   | 2. 事業費     | 2,240,000 | 758,941   | △1,481,059 |
| 2. 寄付金         | 100,000   | 10,000    | △90,000    | (1) 広報部費   | 100,000   | 72,220    | △27,780    |
| 3. 事業収入(会報広告料) | 150,000   | 170,000   | 20,000     | (2) 支部拡充部費 | 890,000   | 636,721   | △253,279   |
| 4. 利子収入        | 150,000   | 257,689   | 107,689    | (3) 事業部費   | 450,000   | 50,000    | △400,000   |
| 5. 雑収入         | 30,000    | 1,510     | △28,490    | (4) 編集部費   | 800,000   | 0         | △800,000   |
| 6. 運用基金繰入金     | 2,902,000 | 1,983,566 | △918,434   | 3. 職員退職引当金 | 200,000   | 200,000   | 0          |
| 7. 前年度剰余金      | 0         | 0         | 0          | 4. 予備費     | 217,100   | 0         | △217,100   |
| 合計             | 9,250,000 | 7,846,766 | △1,403,235 | 5. 銀行預金    | —         | 407,372   | 407,372    |
|                |           |           |            | 合計         | 9,250,000 | 7,846,765 | △1,403,235 |

昭和56年度事業報告書

| 事業に関する定款条文  | 事業内容  |
|---|---|
| 学校の教育施設の改善に関する助成(定款第5条第1項)                        | 1. 母校創立90周年記念事業募金活動に協力した。<br>2. 学園将来計画大綱を検討し、意見書を提出した。                      |
| 学校に在籍する学生、生徒の学修活動および就職指導ならびに教職員の調査研究の助成(定款第5条第2項) | 1. 学校毎に優秀なる学生を表彰する制度を定めた。<br>2. 本学園の学生、生徒の学修活動に助成金を贈って援助した。                 |
| 会誌および学術図書の刊行(定款第5条第3項)                            | 1. 校友会々報の年2回発行を実現した。(これまでは年1回発行)<br>2. 学園コンピューターシステムとの連動による会員名簿作成の準備を進めた。   |
| 会員相互の親睦提携および学校との連絡を図るに必要な施設の設置(定款第5条第5項)          | 1. 事務室、会議室の整備を行った。<br>2. 支部長会議を中心に、支部活動の活性化につき努力した。<br>3. 新年懇親会(1/24)を開催した。 |

昭和56年度事務報告(総務部)

1. 会議の開催状況は下記の通り。

(回数)

|               |    |
|---------------|----|
| 総会(5/31、通常)   | 1  |
| 評議員会(5/31、通常) | 1  |
| 支部長会議(9/27)   | 1  |
| 理事會           | 6  |
| 常任理事会         | 14 |

この外、各部会、各種委員会等が多数開催された。

2. 支部長会議の位置づけ

支部長会議を、定款施行細則第10条に規定し、その

地位を確立すると共に、支部問題委員会をその中の委員会として活動しやすい体制にした。

3. 下記の支部で、支部総会が開催された。

愛知県、北、荒川、山形県、大阪、京滋、兵庫県、川崎、渋谷、三重県、新潟県、湘南、岩手県、鹿児島、北海道、横浜、石川県

4. 事務局長新任

母校調査企画室長の吉田清風氏を現職のまま10月1日付で本会の事務局長に就任を願った。



□ 近況報告

電気同窓会

会長 内山 太

同窓の皆様には各分野で大活躍のこととお喜び申し上げます。同窓会では、同窓会名簿を他の同窓会と規格化するために卒業研究室単位に分類する作業を進めています。卒業生には恒例として金盃の記念品を送ることにしました。学内のことについてお知らせ致します。本年四月に、長嶋秀世氏が電気系同窓生として始めて教授に昇進されました。織野善夫氏が助教授に、吉江治氏が講師にそれぞれ昇進されました。これにより同窓生から教授1名、助教授3名、講師8名という陣容になりました。良い後輩を同窓の手により教育することは非常に喜ばしいことであり、工学院の発展に寄与するものと確信します。卒業生の就職の状況の良いこともうれしいことの一つです。今年の上学希望者は、電気、電子、情報の各定員90名、60名、30名に対し1,513名、1,717名、1,163名で、競争倍率は、それぞれ16.8、28.6、38.8倍になりました。

建築同窓会

会長 小高 鎮夫

※建築学科同窓会名簿発行について、

名簿の発行が大変遅れておりまして、会員の皆様には大変迷惑をお掛けしており、申し訳御座居ません。名簿編集も最終段階に入りましたが、今回、学園側と、校友会によって、漢字プリンターを利用した「コンピューターによる卒業生情報管理システム」が整備されたため、そのシステムを使って、同窓会の名簿を作成することになりました。そのため、あらためて現在名簿の発行の準備に入り、総会通知の返信用ハガキをもって最終訂正にしたいと思っております。前回の名簿希望者も含め、新ためて申込を受付けますので同封の申込欄に記入の上御返送下さい。

応化会

会長 富所 良二

校友会諸兄には元気で御活躍の事と大慶に存じあげま

す。さて、校友会々報第102号刊行に当り応化会として近況の一端を御報告申し上げます。私が昨年会長に就任して一年実に早いもので昨日のように思われます。あれもこれもと思いつつも何も出来ないうちに一年経過してしまつたと云う現状で、誠に申訳ないと思っております。すでに、皆様の御承知の通り本学園の地下周辺に都営12号線の地下鉄が、出来る事になり長い歴史の本校舎を移転するか高層ビルとして残るか又このチャンスに学園の大改革を行い、工学院大学の名声を名実共に天下に広めようと言つた学園将来計画の大綱が打ち出され、昭和56年度は学園の内外を問わず多事多用で私達役員は時には連日会合せざるを得ないと云つた、大変な1年でしたが、未だにその方針は確立せず今後各同窓会は勿論校友全員でとりくんでゆかねばならない問題であります。この際吾応化会も今迄の殻を打破り同輩、先輩双方が縦に横に連繫を取り営業、技術の面から個人生活の面に至る迄、談合、利用し合つて一致団結し1人1人のメリットが「応化会」、「校友会」、「大学」、「学園」と発展して名声も上り又卒業生に更に大きなメリットとして還元され、それに依り学園の将来像も大きく変わり、理想的学園となるものと確信するものであります。それには先づ1人でも多く総会に出席され1人でも多くの意見結集による運営が行われる事が基本です。どうぞ皆様1人1人の御協力の結集に依りすばらしい学園将来計画の実現となります様、御願い申上げる次第です。

□ 校友会だより

総務担当副会長 小高 鎮夫

昭和56年度の校友会活動を理事会及特別委員会その他を通して御報告申し上げます。

第1回理事会 (56、4、28-火-)

議事1、役員選出の件 (一部単体は総会以後)

2、55年度事業報告及収支決算の件

3、定款施行細則改正の件

(第10条に支部長会議の項目を新設)

4、56年度、評議員会、及総会議案の件

第2回理事会 (56、7、22-水-)

議事1、56年度校友会行事予定表の件

2、役員役務分担表の調整の件

3、総会及評議員会の問題点の処理の件

4、会報の年2回発行の件 (承認)

5、役員名簿の発行の件

6、名簿特別委員会の件 (編集部担当)

7、建築学科学生の国際コンペ入選に対する援助の件 (5万円承認)

第3回理事会 (56、9、22-火-)

議事1、事務局の整備の件 (吉田事務局長新任)

2、会報No.101号発行部数の件

3、理事会 (評議員会) の運営の件

4、支部長会議開催の件

5、賛助会費徴収の件

第4回理事会 (56、12、1-火-)

議事1、学園将来計画大綱の対応の件 (大綱検討委員13名選出)

2、校友会将来ビジョン委員会の件 (計28名で構成)

3、賛助会費徴収開始の件

4、事務局の整備の件 (校友会の資料室と学園の調査企画室の交換によるもの)

5、学生、生徒表彰の件

第5回理事会 (57、2、5-金-)

議事1、学園将来計画大綱の件 (※答申案了承)

2、昭和57年度評議員会開催日の件

3、会報102号発行の件

4、校友会将来ビジョン委員選出の件

第6回理事会 (57、3、24-水-)

議事1、昭和57年度事業計画及予算の件

2、大学名称変更の件

3、評議員及役員任期の件

4、昭和57年全国大会開催の件

東学園将来計画大綱答申について

56年10月31日の創立94周年記念日で発表された「学園将来計画」(巻頭掲載)に対して下記の様な答申及要望書を提出した。

■ 答申事項

1、資金計画の内容が明確であれば新宿校地の再開発を基礎とした学園将来計画には賛成である。

2、新宿再開発に当りデベロッパー等との提携の必要が生じた場合はその立案と実行には内外学園関係者の

合意と協力をもって行ふ事。

3、既に開始されている八王子校舎建設計画を含め、学園将来計画に関する建設計画概要と資金計画の内容を具体的に提示し、至急、関係者の意見を求めるべきである。

4、専門学校同窓会より意見提示された下記二項目については充分考慮を願いたい。

1)新宿校地再開発に伴い専門学校は一時移転とし、しかも新宿の近隣であること。

2)計画に際し、夜間部の存続を計ること。

■ 要望事項

1、今回の将来計画には関係なく、地盤沈下のはげしい学園の体質改善には直ちに具体的な検討に入るべきである。

2、将来計画の推進に当り、実行委員の構成メンバーには、学園内外の若手を積極的に参加させるべきである。

3、新宿と八王子を相互関連しつつ、都心型をもって学園の将来像を計画して頂きたい。

4、将来計画は、計画、予算、実行の三部門で構成され、それぞれ責任体制を明確にする。更に三部門に対する総合的な諮問機関を発足させる。(など各同窓会提出の意見書添付)

○特別委員会活動

(1)定款検討特別委員会

○準会員○役員任期等につき検討した。

(2)各部活動

○全国支部長会議 (56、9、27) 本学園富士吉田セミナー校舎にて開催

(3)新年懇親会 (57、1、24) 本学新館8階にて開催。

□ 支部だより

支部拡充部長 小野塚 政雄

56年10月各支部長さんへお願い致しましたアンケートについては63%の回収があり、目下内容について検討中です。ありがとうございます。名簿を希望された支部へは比較的新しい応化会、電気同窓会、高校同窓会、専門学校同窓会の分その他工学院大学概要、窓、学園将来計画大綱、校友会報などと共にお送り致しました。

合併後はいろいろと会議を重ねその回数も本年度は2

桁を越しそうです。特に最近では学園将来計画大綱、校友会賛助会費制度について、校友会全国大会開催等、支部の皆様と面接の上で報告致し度いと思っておりますので各支部で総会等を開かれまた状況をご一報お願い致します。

### 北海道支部大会報告

日時 昭和57年2月13日 18時より  
場所 札幌市 石狩会館  
出席者 今野正治新支部長以下36名

下記参考書類により近況説明した。

1. 理事会議事録
2. 学校法人学園将来の大綱
3. 大学近況、「工学院大学概要」「窓」その他

なお、前支部長故渡辺彦太郎氏宅を訪れ弔門した旨報告し、その後盛大な懇親会が行われた。

(支部拡充部長 小野塚政雄)



北海道支部大会

### 第5回全国大会開催のお知らせ

総務部長 落合康男

第5回全国大会が、今秋、下記の通り、京都市で開催されます。全国大会も、5回を数へ、第1回以来8年を経過しました。この間、内外の状況は大きく変化しており、新しい時代にふさわしい大会には思い切った発想の転換が必要です。

今回は、京滋・大阪・兵庫県の各支部を中心に、愛知・三重・岐阜県支部の協力で開催されますが、単なる支部の大会ということではなく、全卒業生の大会にふさわしい内容を持ち、学園を始め、関係諸団体にも参加していただき、相互の接触、分科会等を並行して行い、意義ある大会にしたいと思っております。勿論これま

で通り懇親会や見学会も行い、古都の秋を満喫していただくつもりです。

まだ大分先ですが、会報で全会員にご案内するのは今回だけです。なるべく早目に、本会事務局宛お申し込み下さい。多数会員の参加を切望しております。

記

- 1、日時 昭和57年11月27日(土) 15.00参集
- 2、会場 京都市東山区円山知恩院北入  
※楠荘、電話(075)531-1141
- 3、会費 18,000円

(注) 詳しくは、本誌折込ピラを参照下さい。

### 原稿募集

工学院大学校友会会報は毎年4月と10月の2回発行することになりました。ついては下記により原稿を募集致します。

記

1. 随筆、紀行文、一般向きの論文
2. 各支部の情報
3. 叙勲その他校友会会員、卒業者の情報
4. 提案、その他

以上400字詰原稿用紙使用(横書き)必要に応じ図面、写真等添えること。

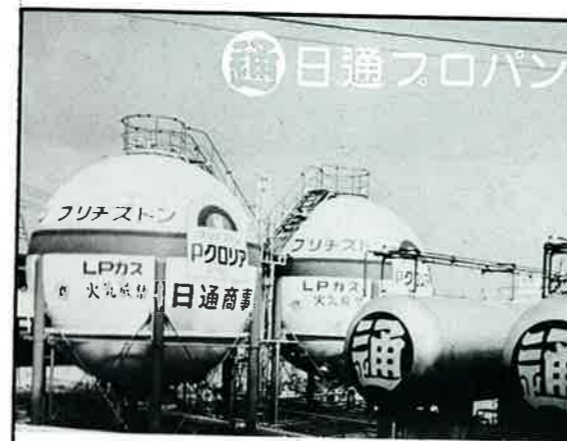
広報部

◇編集後記 第102号の校友会報をお届けします。今回は去る1月24日の校友会新年懇親会当日行われた高山理事長の特別講演「都市計画から見た東京都」の大綱と、伊藤学長が学園将来計画委員会委員長の立場で昭和56年10月の時点において発表した「学園将来計画大綱」(案)を、両先生の御了解の上で誌上に発表させていただきました。事情は時機によつて刻々と変わってゆくかも知れませんが、一つの考え方の基本として御参考に役立てていただければ幸いに存じます。会報が年2回発行になりましたので、可成りの内容を盛ることが出来る筈です。別欄の原稿募集要領によりどしどし原稿をお寄せ下さるようお願い致します。(角田)



## 日本通運株式会社

ご用命は、お近くの営業店または取扱店をお願いします。



総合商社としての機能を特約販売店と直結し 共に繁栄を...



本社/東京都千代田区外神田3-12-9 ☎253-1111  
総合支店/東京・名古屋・大阪・福岡・新潟・仙台・札幌

日通商事は地域社会に密着した総合商社として日頃から生活文化の向上に努力しております。日通商事ファミリーショップは豊かなくらしづくりに必要なあらゆる情報、商品ととりそろえて地域社会に貢献しております。

編集兼 角 田 孝 助  
発行人  
印刷所 東京都中央区船場一丁目五十一番一  
電話(352)九七三十一

発行所 工学院大 校友会  
社団法人

東京都新宿区西新宿一丁目四十二番  
電話(三〇三)二〇六四番  
振替東京九一〇八番  
一六〇一九一

# 世界水準を誇る品質と技術



代表取締役会長  
計量士  
溝呂木金太郎  
(大正10年機械科卒)  
代表取締役社長 溝呂木雅之

圧力計 温度計  
カロリーメータ 液面計



本社・東京支店



上田工場



熱技術センター

## NKS 株式会社 長野計器製作所

- |           |  |
|-----------|--|
| 本社        | 東京都大田区東馬込1丁目30番4号  |
| 上田工場      | 長野県上田市大字秋和1丁目1番地   |
| 東京支店      | 東京都大田区東馬込1丁目30番4号  |
| 大阪支店      | 大阪市東区北久太郎町2丁目45番地  |
| 名古屋支店     | 名古屋市中区錦1丁目11番20号   |
| 広島支店      | 広島市中区橋本町6番11号  |
| 九州支店      | 福岡市博多区博多駅前3丁目23番12号  |
| 札幌営業所     | 札幌市中央区南三条西12丁目325番地2   |
| 仙台営業所     | 宮城県仙台市一番町1丁目13番20号   |
| 静岡営業所     | 静岡県静岡市伝馬町2番地8  |
| 四国出張所     | 香川県高松市瓦町1丁目3番地12   |
| 富山出張所     | 富山県富山市八人町9-1   |
| 長崎出張所     | 長崎県長崎市光町5番20号  |
| アメリカ駐在事務所 | 3020 N-Hesperian Way, Santa Ana, California, 92706 U.S.A.                          |
| ブラジル連絡事務所 | Avenida Bernardino de Campos, 98 Paraíso São Paulo, S.P., BRAZIL TEL 284-3011 (代表) |